

令和4年4月長浜市教育委員会定例会 会議録

I. 開催事項

1. 開催日時

令和4年4月28日（木） 午後1時30分～午後2時25分

2. 開催場所

教育委員会室（長浜市八幡東町632番地 長浜市役所5階）

3. 出席者

教育長	織田 恭淳
委員	前田 康一（教育長職務代理者）
委員	廣田 光前
委員	宮本 麻里
委員	中村 亜紀

4. 欠席者

委員	松宮 誠也
----	-------

5. 出席事務局職員

教育部長	内藤正晴
次長	堤幹広
次長	東野裕賢
管理監（未来子ども局設置準備担当）	
兼幼児課長	中島尚子
教育総務課長	服部稔
教育改革推進室長	中北隆尚
教育指導課長	笥敏弘
すこやか教育推進課長	山岡万裕
教育センター所長	橋憲照
生涯学習文化課長	川瀬智久
生涯学習文化課担当課長	下司満里子
教育総務課長代理	前嶋美和
教育総務課主幹	川瀬奈津代

6. 傍聴者

なし

## II. 会議次第

### 1. 開 会

### 2. 議 事

日程第 1 会議録署名委員指名

日程第 2 会議録の承認

日程第 3 教育長の報告

日程第 4 議案審議

議案第 19号 臨時代理の承認について（長浜市就学前特別支援検討委員会規則の一部改正）

議案第 20号 学校運営協議会委員の任命について

議案第 21号 長浜市社会教育委員の委嘱について

議案第 22号 長浜市図書館協議会委員の委嘱又は任命について

日程第 5 協議・報告事項

日程第 6 その他

### 3. 閉 会

## III. 議事の概要

### 1. 開 会

教育長から開会宣言があった。

### 2. 会議録署名委員指名

前田委員、宮本委員

### 3. 会議録の承認

3月定例会

特に指摘事項はなく、4月定例会の会議録は承認された。

### 4. 教育長の報告

教育長：新年度になりまして初めての定例会ですので、抱負をお話しさせていただきます。

校長会、教頭会ではすでにお話させていただきましたが、教育長という仕事は教育行政の中心として、あらゆる教育環境の整備を進めることが役目だと認識しております。令和4年度の教育行政方針に従い、一生懸命頑張りたいと思いますので、どうぞよろしくお願いします。

私が長浜北中学校の校長時代に、「海一味」という言葉を教えていただきました。海に一つの味と書きますが、これは正信偈というお経の一節に出てきます。どのような意味かと申しますと、海というものは色々な川から清らかな水や濁った水、あるいは汚染された水も黙って引き受け、それらを全て同じ味に

仕上っているという意味です。私はその話を聞き、公教育によく似ていると思いました。学校の中には、色々なお子さんがおられます。その子どもたちをしっかりと各学校や園で受け止めて、誰一人取り残さず、同じ力をつけてまた社会にお返しするのが、私たちの仕事ではないかと思ったわけです。

校長会や教頭会の中でも、このような気持ちを持って教育に携り、子どもたちに出会っていききたいというようなことをお話しさせていただきました。子どもたちにどのような力をつけてお返しするのかということですが、どうしても外せないのは、やはり学力の向上です。しかし、人間というものはテストの点数のみで測れるものではありません。人のことを思いやることができる、あるいは根気よく物事に取り組み継続的に頑張ることができる、または何かに失敗してもそこから乗り越え立ち直っていく回復力があるなど、そういう力が必要であり、重要ではないかと考えています。学校教育目標や、長浜市内の学校をそれぞれ見てみると、ほとんどの目標に「心豊かに」や「強く」など、心の部分を鍛えて育てたいということが出ております。やはり、どの学校もそれが一番大事だということが分かっていると思います。全国学力・学習状況調査の問題では、そういう部分が調査できるようになっております。別の面から言いますと、もしそのテストにおける調査が、私たちが取り組んできた子どもたちに生きる力をつけるための教育を測るものであり、それがずっと低位を続けているのであれば、長浜の教育を一度問い直して、何が足りないのか、子どもたちにどのような力が必要なのかを、自分たちに矢印を向けて考えなければならないのではないかというようなことを申しあげました。

そこには、色々な課題がございます。貧困から来る格差の問題、それから虐待やDVなどといった家庭の問題など、その全てに色々な課題はありますが、そのような課題のある子どもたちを預かり、しっかりと力をつけさせていかなければならない、そのための努力や問い直しをしていこうというようなことを申しあげましたし、私自身もやっていかなければならないと思っています。

先日出席したスポーツ少年団の結団式においても、子どもたちが誰かに言われなくても自分で考え、自分で行動できるような力をつけていかなければならないというように感じる場面があり、真の学力をつけてあげるということは、本当に大事なことだということを改めて思いました。

では、具体的にどうするのかということですが、また後ほども出てきますが、学力向上のプロジェクトチームというのを特別に設置しました。これは、市長の公約にもあり、このチームで色々な具体的な方策を考えて取り組んでいきたいと思っております。

1つ例を申しますと、教育をしていただくのは先生方です。「教育は人なり」と申しますが、先生方の今の働き方を考えたときにどうなのか。先生方の働き方に対する課題や問題に対してどうしていくのか、教育委員会が一体となって、色々なことを考えております。そのようなことも、今後、皆さんと一緒に議論をさせて

いただきながら、教育委員会が中心となって、長浜の子どもたちの未来を引っ張っていけたらと思いますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

廣田委員：大変重いお話だと思います。やはり、自分の力や自分の判断力は大事だと思います。私は、とにかく心が大事だと思っています。心の豊かさや心の優しさ、そういうことが人間形成の上ではとても大切なことです。これができれば、その他のことも自然にできていくのではないかと考えています。

中村委員：生きていく力ということに関して、非常に関心があります。学力が高いとか低いとか、色々あると思いますが、子どもたちだけでなく、私たちもそうですが、一生何かをして生きていかなければならないので、仕事でも何でも、生きていくために続けられるもの、自分で生きていくために、これをして生きていけるというものがあればいいのではないかと考えています。子どもたちにとって、私はこれができるというような自尊心があり、何か職があるということが大事だと思います。

教育長：自尊心につきましては、特に幼少期の親子関係や人や友達との関係であるとか、前板山教育長も就学前教育に非常に力を入れておられましたが、改めてそういう部分への手当や支援というのは大事だと感じています。

宮本委員：何が起きるか分からない今の世の中で、急に学校が長期的な休みになることがあるかもしれない。そうなったときに、先生に言われた宿題などをこなしているだけではなく、たくさんの時間の中で自分はどのようにするべきかなどを、しっかりと考えられる子どもたちがたくさん増えていけば良いと思います。

また、定例会でも、よく話に出るのですが、将来の夢を持つ子であるとか、自分がどのような大人になりたいであるとか、何かそういった目標ややりたいものがある子どもたちや、この長浜にもたくさんの色々な大人がいて、あんな人みたいになりたいであるとか、あの職業に就きたいであるとか、とにかく何かワクワクして人生を過ごしていけるような子どもたちが増えたらいいなと思います。

先程、おっしゃっていた先生の働き方についても、先生方が少しでも働くことと家庭のことを、両方楽しめるような環境ができていけば良いと思います。

教育長：全国学力・学習状況調査でも「夢や目標を持っていますか」という数値が長浜は低い状況です。その部分については、どうすれば子どもたちが夢や目標を持てるのか、もう少し言えば、先生たちがそれを持っているかという部分もあります。子どもたちが憧れる対象としては、先生が一番近いということもありますので、そういう学校や園づくりができれば良いと思います。

前田委員：私も小学校の現場で、長く勤務しておりましたので、色々な子どもたちの資質や、こういった子どもになって欲しいというのは、すべて授業を通して育てていくというのが学校の使命だと思います。先生たちが夢と希望を持って、そういった部分に合わせた授業をどのようにしたら良いのかを考えていただきたいです。

教員の仕事はクリエイティブで一番面白いと思っています。担任になれば、自

分が考え、色々なものを創造しながら、色々なことがやれると思います。それが子どもたちを育てていくというような1つの方向性を、皆で一緒に持ってやれたら、こんなに楽しい仕事はないということです。もっと先生方の主体性を尊重し、先生がクリエイティブに色々なことにチャレンジし、自分を高めるとともに、子どもと一緒に高め合っていけるような、そういう関係をつくり上げられたら、先生方の働き方改革も何か少し見えてくるものがあるのではないかと考えています。

そして、教育委員会もそういうスタンスで先生方を支援していくことが、子どもたちを支援していくことにもなると思います。そういった意味で、子どもたちが生き生きと前向きに、色々なことに夢を持ってチャレンジするようになってくれたら良いと思っています。

教育長：今後も、子どもたちのことで色々と議論を進めていきたいと思っていますので、忌憚のない御意見をお願いしたいと思っています。

## 5. 議案審議

議案第 19 号 臨時代理の承認について（長浜市就学前特別支援検討委員会規則の一部改正）

教育長は事務局に説明を求め、各所属長から資料に基づき説明があった。

主な質疑応答は以下のとおり

前田委員：庶務を幼児課から教育指導課へ移管する理由は何ですか。

教育指導課長：今年度から教育指導課内に、課内室として特別支援教育推進室を設置しました。こちらについては、就学前から義務教育終了までの子どもたちを対象に、長期的な視野に立ち、一人ひとりの教育のニーズに応じ、切れ目のない支援を行うために枠組みを変えたものです。このため、これまで幼児課で行っていた幼児対象の特別支援教育についても、教育指導課において一括して行うことになったためです。

その他に意見はなく、各委員とも意義なしということで原案どおり承認された。

議案第 20 号 学校運営協議会委員の任命について

教育長は事務局に説明を求め、教育指導課長から資料に基づき説明があった。

主な質疑応答は以下のとおり

教育長：今も各学校の学校運営協議会会長の会議を行っているのですか。

教育指導課長：昨年度につきましては、コロナ禍ということもあり、この会議を持ってませんでした。ただし、各校でどのような活動をされているかについての冊子を作り、各校の学校運営協議会の交流としました。

教育長：各学校で特色ある取組をしていただいております。子どもたちの真の学力向上のためには、地域のカも必要だと思っています。色々な大人が子どもに関わることで、子どもたちが色々な体験や経験ができると思うので、学校運営協議会を単なる支援組織ではなく、自分事として地域の子どもたちを育てていただけるよう



な、そんな組織にさせていただきたいと思います。

その他に意見はなく、各委員とも意義なしということで原案どおり決定された。

#### 議案第 21 号 長浜市社会教育委員の委嘱について

教育長は事務局に説明を求め、生涯学習文化課長から資料に基づき説明があった。

主な質疑応答は以下のとおり

教育長：社会教育委員の主な仕事を教えてください。

生涯学習文化課長：社会教育委員につきましては、1点目が社会教育の諸計画を立案することということになっております。今年度に「長浜市生涯学習社会づくり基本方針」というものを策定することになっております。着手につきましては、以前の定例会で説明させていただきましたが、本年度はこの計画の立案に携わっていただくことになっております。

また、教育委員会の諮問に対して社会教育委員の会議を開き、意見を集約して答申をするということになっております。先ほど学力向上の話の中でもありましたように、やはり生きる力というのは、学校教育以外の社会教育に対しても大切なことですので、教育委員会の中でも社会教育委員に意見を聞きたいことなどがありましたら、諮問していただければと思っています。

また、社会教育委員につきましては、教育委員さんのように執行機関としての構成で任命されているわけではなく、独任制になっており、個人としてそれぞれ任命されておりますので、それぞれが調査研究を行い、その意見をいただくという役割になっております。

教育長：教育委員会からこういうことについて聞かせて欲しい、議論してほしいと諮問することで、社会や市民の声とし、色々な考えをお聞かせいただくことができるということですか。

生涯学習文化課長：はい、そうです。

その他に意見はなく、各委員とも意義なしということで原案どおり決定された。

#### 議案第 22 号 長浜市図書館協議会委員の委嘱又は任命について

教育長は事務局に説明を求め、生涯学習文化担当課長から資料に基づき説明があった。

主な質疑応答は以下のとおり

教育長：長浜市図書館協議会とはどのような機関ですか。

生涯学習文化課担当課長：長浜市図書館協議会は館長の諮問機関という附属機関という役割があり、図書館の大きな課題であるとか今後どうしていくかということ館長が諮問をし、それらを取りまとめて答申いただくというのが一番大きな役割となっています。具体的には、最近ですと、「第2期長浜市図書館基本計画」を策定しましたので、その際の審議などを懇話会として協議いただき、日頃の計画に基づいた実施プランがあるため、サービスの中身についての様々な意見や、

外部の評価をいただいたりしている機関です。

教育長：子どもたちの読書の推進といった部分話し合う機関としても、何か役割はありますか。

生涯学習文化課担当課長：図書館協議会の委員の皆さんに、「長浜市子ども読書活動推進会議」のメンバーとしても同じように活動いただいております、そういった側面からは、子ども読書活動についても様々な意見や、事業についての評価をいただいております。

教育長：長浜市の子どもの本を読む量など、具体的にはどうですか。

生涯学習文化課担当課長：数値としては、一昨年はコロナの影響で休館などをさせていただいたので大きな影響がありましたが、新しい長浜図書館ができたことにより、全体の貸出冊数などは若干上がっています。

とりわけ、昨年度は、ヤングアダルトという10代のお子さん中心の子ども読書活動の範囲を重点的に図書館で行ったということがあり、大学との連携などを丁寧に行ったことで、多少ですが、青少年の皆さんの利用が増えたように感じています。

また、本当に大きな課題ですが、乳幼児や幼児の読書活動というものは、幼児課さんと一緒に調査をいたしました、やはり二極化しており、たくさん読まれる方は家庭でも丁寧に読み聞かせをされていますし、1週間に一度もなかなか本を開く機会がないというお子さんの親御さんも残念ながらありますので、その辺りが今後の課題だと思っています。

教育長：合同会社LOCOさんではこういった本の読み聞かせなどはされていますか。

宮本委員：図書館さんから100冊くらい本をお借りし、親子を呼んで保育士やボランティアが読んだりしています。家で毎日読み聞かせをしようと思うと大変なお母さんも多いので、イベントとしてまずは参加してもらい、少しでもかかわるきっかけを作ろうと行っています。

教育長：中村委員は読み聞かせはどうですか。

中村委員：もともと小学校で読み聞かせをしており、図書館の読み聞かせにも時々参加させていただいておりますが、やはり今コロナの影響でおはなし会をするときにも、参加者を4組に制限してしか行えないということがあります。また、最近ヤングアダルトのコーナーに、大学生とのコラボのようですが透明な箱の中におみくじのようなものが入っており、それを引くと色々なテーマごとにおすすめの本の説明があります。何を读もうかと迷ったときに、こういったものがあると、おみくじのように本が選べ、そこからその作家を好きになるなど、そういうこともあると思うので、とても良い取り組みだと思いました。また、新しい図書館になり、駐車場も広くなり、ふらっと立ち寄れるというのがいいと思います。

教育長：全国学力・学習状況調査の問題でも、何枚もページをめくる必要があり、前のページに何が書いてあったかを覚えていなければならないのですが、これは

ワーキングメモリと言いまして、小さな時から本を読んでおくと、ストーリーが頭に入る力というか、能力の発達に良いと聞き、やはり小さな時から本に親しむというのは大事だと思いました。

前田委員：スマートフォンでも全国学力・学習状況調査の問題が読めますし、紙媒体として新聞にも出ていましたので、私も実際に両方でやってみました。そうすると、前のページを振り返ったときにスマートフォンだとすぐに忘れてしましますが、活字で見て読んでいくと頭の中に残っています。教科書もデジタルになるというふうになっていますが、色々な弊害があると言われており、これから色々な問題が出てくるのではないかと思います。子どもたちの脳のことと関連して、読書をやるかやらないというのは、大きな違いになっているのではないかと自分自身も実感しています。

教育長：そのようなことも、色々な施策の中に入ってくると良いと思います。

廣田委員：今、日常における色々な場面で、パソコンなどを操作していますが、デジタルよりもアナログの方が覚えられます。例えば、私は講演会などがあると、資料を調べてコピーして覚えます。これをパソコンなどで調べて、利用するとなると、なかなか覚え切れないです。

その他に意見はなく、各委員とも意義なしということで原案どおり決定された。

## 6. 協議・報告事項

審議案件なし

## 7. その他

中村委員：あるテレビで、学校の就業開始時間は8時半からということを知りました。しかし、実際には子どもが8時半までに学校に登校してしまうことがあり、そうすると、どうしても先生も早く来なければならなくなっている気がします。実際に、市内の学校の先生はどうされていますか。

東野次長：各学校では勤務時間の割り振りが決まっています。大体、就業開始時間は8時15分で、1日7時間45分と決まっています。学校全体として子どもの登校を迎えるということがあるので、そのあたりも含めて勤務し、実際にはボランティアといいますか、8時15分や30分よりも前に出勤し、全員が全員ではないので、交代をしながら勤務をしているという状況があると思います。

教育長：教員には残業手当は出ませんが、教職調整手当といって給料の4%の上乗せがあります。これは定額なので、個人により勤務時間外の時間も異なるため、文部科学省でも問題になっている部分でもあります。

前田委員：学校組織としても、子どもが登校する時に誰もいないのは、管理上問題になるため、先生方みんなが教育、いい意味では教育愛に満ちて、早く来た子どもたちを受け入れ、学校体制として見守っているというのが現状だと思います。

中村委員：特に今年は、大雪などの対応で大変だったと思います。



教育長：現場は大変だったと聞いています。そういった働き方についても、できることから始めたいと思いますので、皆さんからも色々な御意見をお聞かせいただければと思います。

#### 8. 閉会

教育長から閉会宣言があった。